

付着生物ラーバ情報

サンカクフジツボの付着は終了しました

1 ラーバ等の出現状況

ラーバ等の調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは見られませんでした (表1、図2)。

(2) サンカクフジツボ (通称：アカガキ)

ラーバは見られませんでした (表1、図3)。

(3) ムラサキイガイ (通称：カラスガイ、シウリ)

ラーバは久栗坂沖で10月6日に0.6個体/m³、10月13日に2.8個体/m³、川内沖で10月14日に0.8個体/m³、奥内沖で10月19日に0.8個体/m³見られました (表1)。

(4) その他

ザラボヤ、キヌマトイガイのラーバは見られませんでした (表1)。

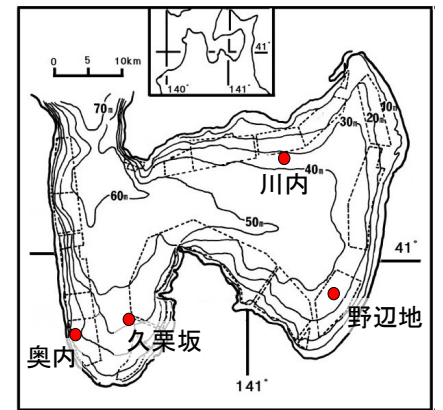


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	サンカクフジツボ	ユウレイボヤ	ザラボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ
奥内沖	R4.10.13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	R4.10.19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
久栗坂沖	R4.10.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
	R4.10.13	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8
野辺地沖	R4.10.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	R4.10.17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
川内沖	R4.10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	R4.10.14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

ユウレイボヤは生息する水温が

20℃以下に低下すると産卵します。現在、陸奥湾内の中層水温は19℃前後です。未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、ラーバが出現する可能性があるので親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください。また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

サンカクフジツボのラーバは出現

していないので付着は終了したと思われる。

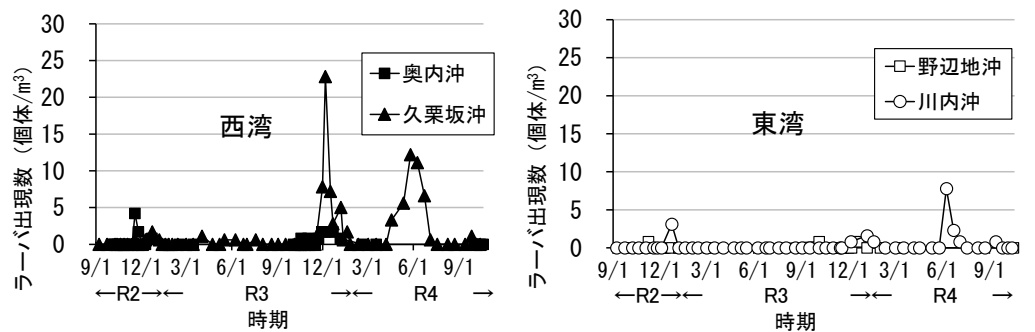


図2 ヲウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和2年9月～令和4年10月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値：西湾 25個体/m³、東湾 10個体/m³

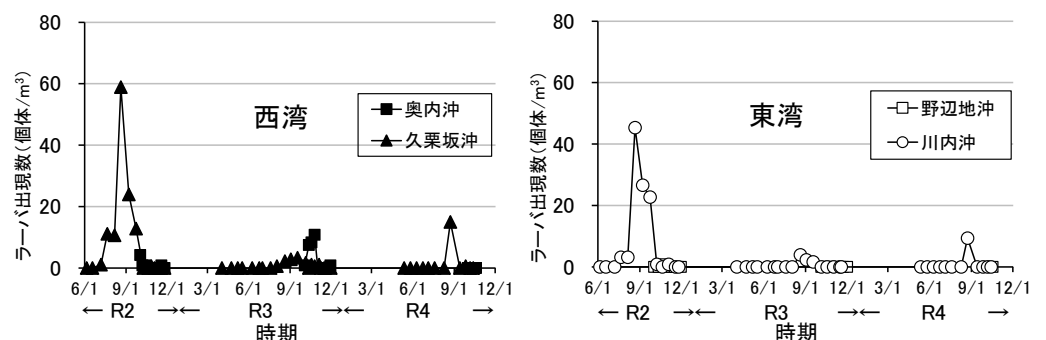


図3 サンカクフジツボラーバ出現数の推移 (令和2年6月～令和4年10月)

・令和元年の観察開始から現在までの最大値：西湾 59個体/m³、東湾 45個体/m³

